

新規事業評価調書

【河川事業】

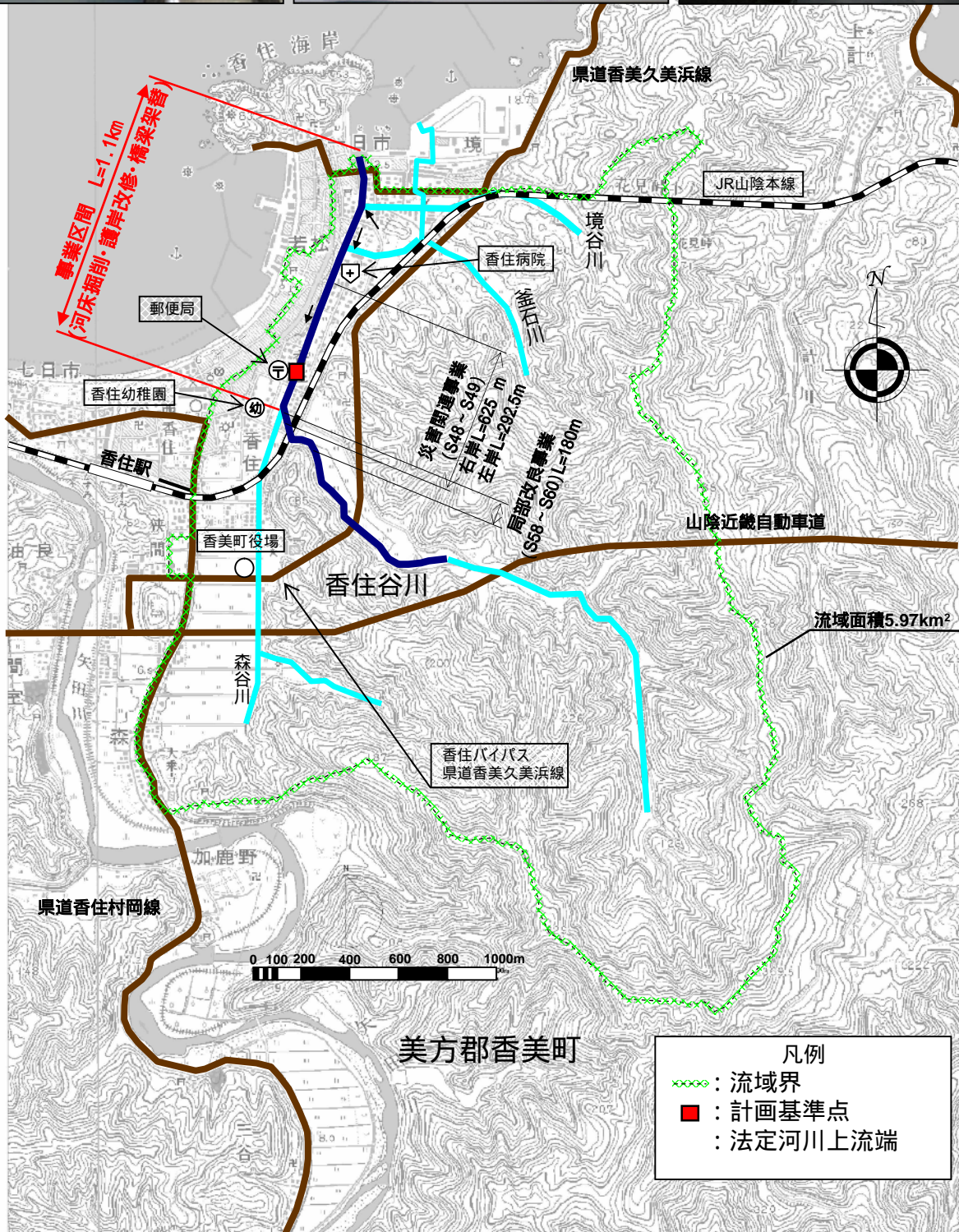
二級河川 香住谷川

県土整備部
土木局 河川整備課

投資事業評価調書（新規）

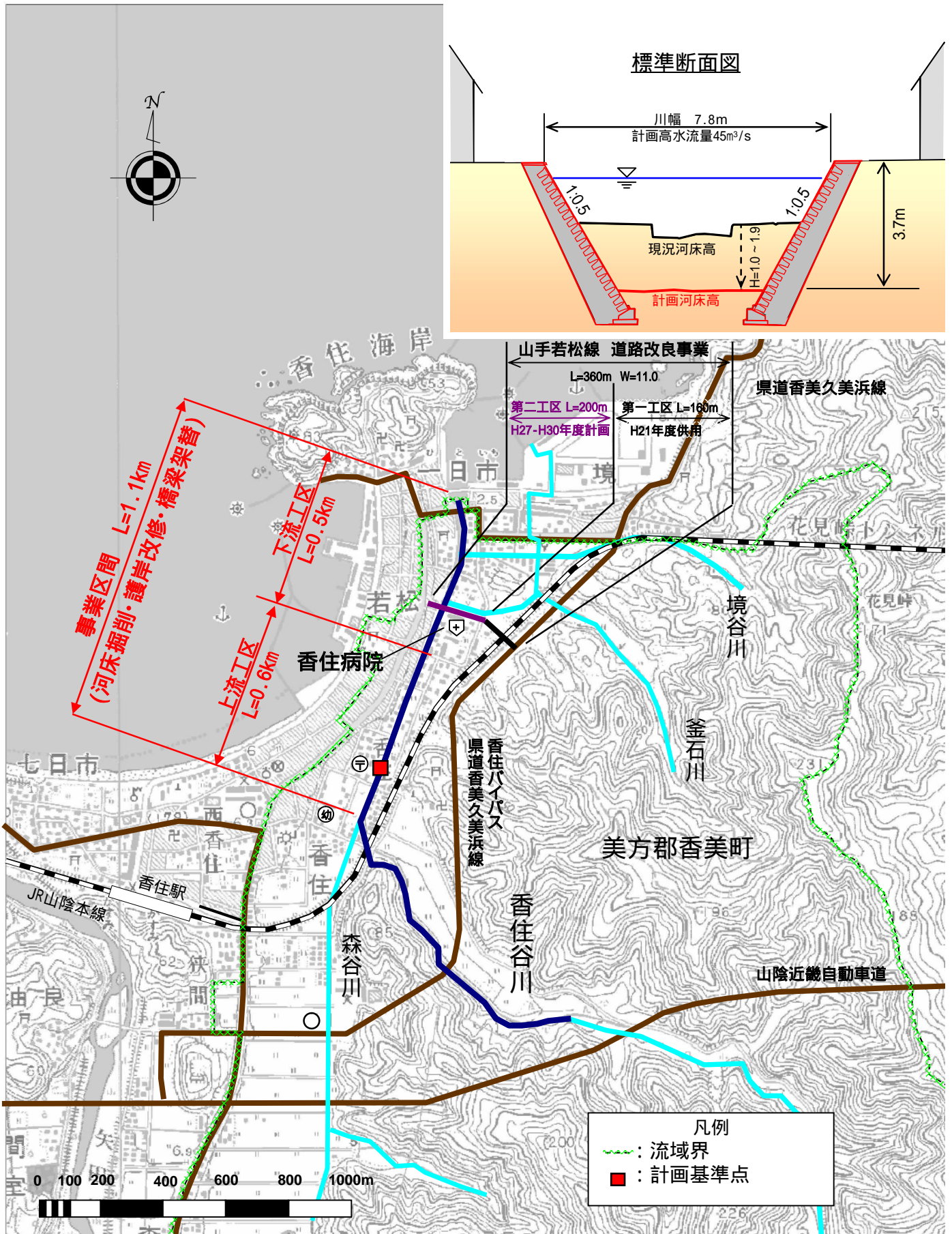
部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 松本 正利 (治水係長 高橋 篤志)	内線	4408 (4437)	
事業種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地補償費	着手予定年度	完了予定年度
河川事業	二級河川香住谷川水系香住谷川 総合流域防災事業	香美町香住区 一日市～香住	20億円	-	平成26年度	平成35年度
事業目的			事業内容			
<p>香住谷川は香美町香住区の中心市街地を貫流しており、流域においては、特に平成2年台風第19号や平成16年台風第23号等、これまで度重なる浸水被害が発生している。</p> <p>このため、戦後最大の平成2年台風第19号洪水と同規模の洪水に対して浸水被害を軽減するため、河川整備計画に基づき、当該事業を実施する。また、「但馬地域総合治水推進計画」に位置づけ、当該事業を河川下水道対策として行うとともに、流域対策・減災対策を併せて行うことにより、再度災害を防止し、地域住民の安全・安心を確保する。</p>			<p>計画流量45m³/s(基準点:通玄寺橋) 改修延長 1,100m 河床掘削 約12,000m³ 護岸改修 約9,900m² 付帯工事 橋梁架替 7橋 〔負担割合 国:1/2, 県:1/2〕</p>			
評価視点	評価結果の説明					
(1)必要性	<p>過去から浸水被害が生じていたため、局部的な改修を実施しているが、改修後も浸水被害が生じている。</p> <p>(改修実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害関連事業(昭和48年～昭和49年)〔河口0.6km～JR鉄橋下流まで〕 ・ 局部改良事業(昭和58年～昭和60年)〔JR鉄橋上下流〕 <p>(改修後の浸水被害)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 改修後の昭和60年以降、4回(昭和62年、平成元年、平成2年、平成16年)の浸水被害が発生。 ・ 平成2年台風第19号による浸水被害〔浸水戸数348戸(内床上99戸)〕 ・ 平成16年台風第23号による浸水被害〔浸水戸数35戸(内床上1戸)〕 <p>現況流下能力は、通玄寺橋地点において約20m³/sであり、平成2年9月台風第19号と同規模洪水に対する被害軽減に必要としている整備目標流量(45m³/s)の半分にも満たない。</p> <p>度重なる浸水被害が発生しており、早急に河川改修を実施して、再度災害防止を図る必要がある。</p>					
(2)有効性 ・ 効率性	<p>費用便益比B/C=1.7</p> <p>沿川には人家が連たんし、県道等の重要交通網もあることから、河川改修による浸水被害額の軽減効果が大きい。また、香住病院、商工会館、郵便局、幼稚園などの公共公益施設が集中しており、各施設が浸水によって機能停止となった場合の社会的影響を考慮すると、河川改修による浸水被害軽減の効果はさらに高くなる。</p> <p>河川改修により、平成2年台風第19号と同規模の洪水が発生しても、事業区間内において浸水被害が概ね解消する。</p> <p>香住谷川下流部を横断する町道山手若松線の新設計画(平成27年～30年)にあわせて、前半5ヶ年で河口～香住病院までを重点整備することにより、町事業との一体的な事業進捗を図るとともに、住宅が密集している下流部での早期事業効果発現を図る。</p>					
(執行環境状況)	<p>平成2年の水害を契機に、県・町・地元で構成する「香住谷川づくり懇話会」等で対策検討を重ねながら、地元合意が得られたところであり、事業執行環境も整っている。(河川整備計画：国に同意申請済み)</p> <p>香住谷川流域を含む地域総合治水推進計画を平成26年度に策定する。</p>					
(3)環境適合性	<p>河川及び沿川における生物の生活環境に配慮した整備(魚巣ブロック等の設置)により、環境の保全を行う。</p> <p>下流部において、水面に近づくための階段および小段を利用した歩道の整備により、親水性の向上を図る。</p>					
(4)優先性	<p>度重なる浸水被害が発生している本河川の改修の優先度は高い。</p>					
【事後評価】 対象・対象外	<p>完成断面における流下能力の検証 事業に対する地域住民の意識調査</p>					

【全体計画平面図】



【河川改修の概要】

河川改修区間は、支川・森谷川の合流点から河口までの1.1km区間とする。



被災・出水状況(既往洪水)

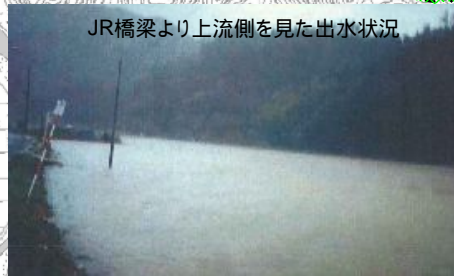
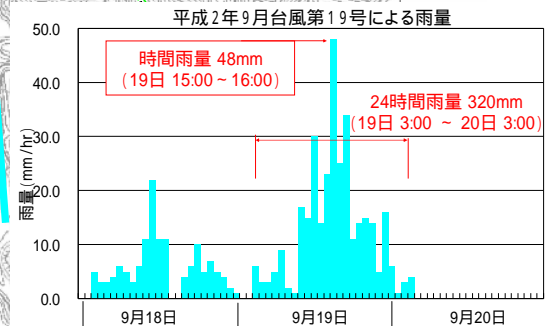
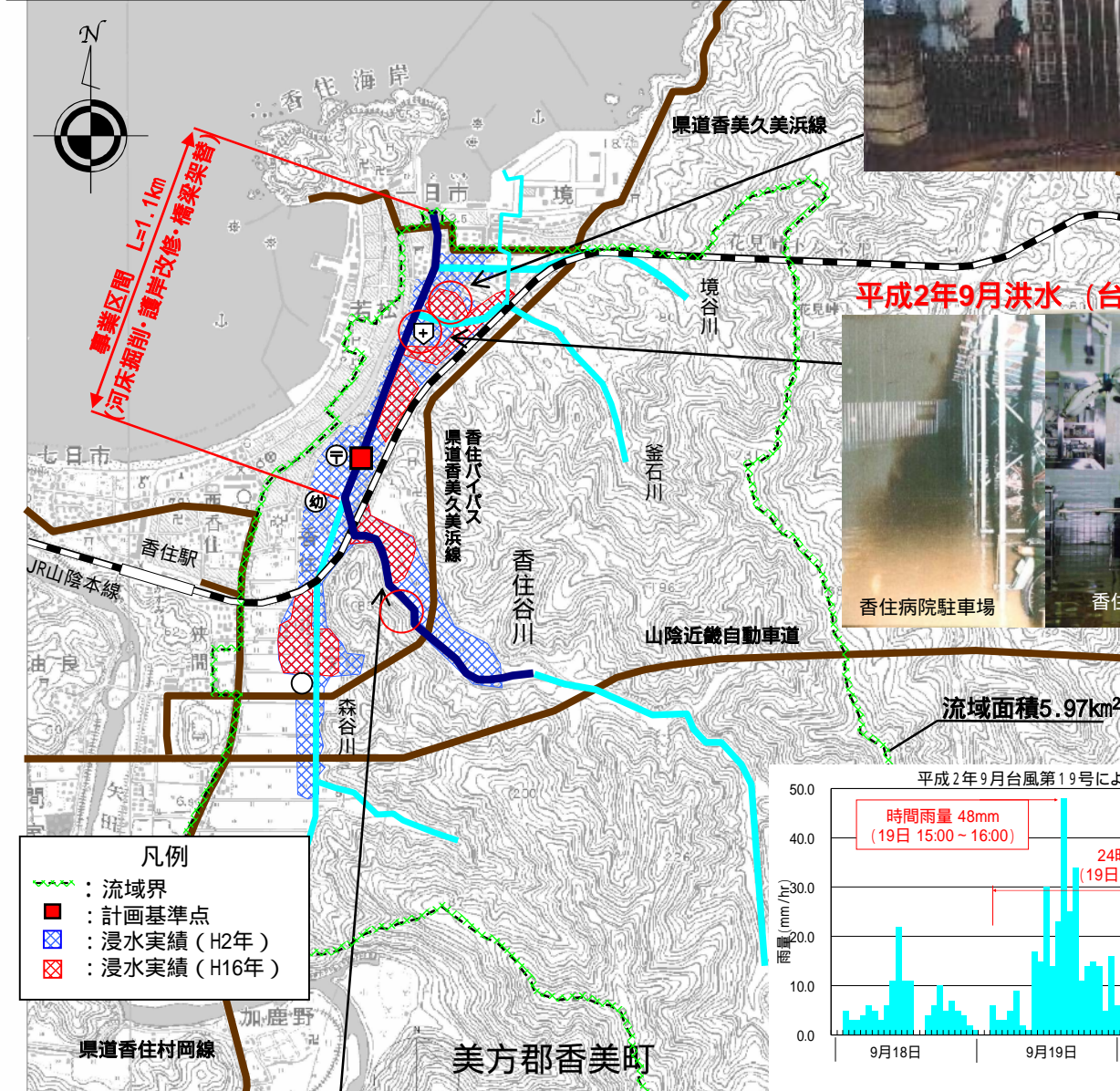
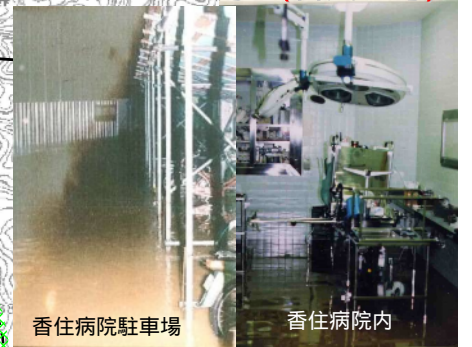
主な災害履歴

No.	降雨年月日	降雨原因	浸水戸数		水田 浸水面積	実績雨量(mm)	
			床下	床上		最大 1時間	最大 24時間
1	昭和62年10月	台風第19号	4	1	6.0ha	37	222
2	平成元年10月	集中豪雨	13	6	不明	44	110
3	平成2年9月	台風第19号	249	99	22.7ha	48	320
4	平成16年10月	台風第23号	34	1	13.8ha	30	192

平成元年10月洪水 (集中豪雨)



平成2年9月洪水 (台風19号)



昭和62年9月洪水 (台風19号)



1. 実施工程表

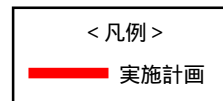
	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	H 3 1	H 3 2	H 3 3	H 3 4	H 3 5
測量・調査・設計										
護岸、河床掘削										
橋梁架替										
工区	全体	下流工区（河口～香住病院）				上流工区（香住病院～森谷川合流点）				

2. 事業効果について

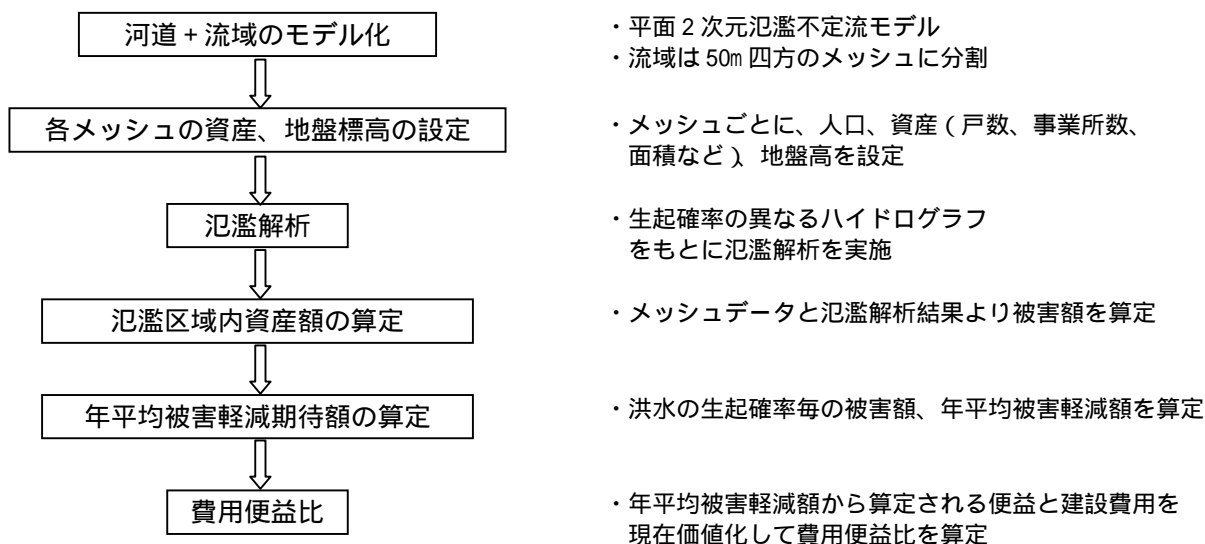
(1) 費用対効果

便益 (B) の項目

- 1) 便益 = 治水事業を実施することによる被害軽減期待額を現在価値化被害額 = 一般資産被害 (家屋、家庭用品、事業所償却資産、農漁家償却資産等) + 農産物被害 + 公共土木施設等被害 + 営業停止被害 + 応急対策費用
- 2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化



治水経済調査マニュアル (案) 国土交通省河川局 (平成17年4月)



費用便益比 (B / C) 算出根拠

便益 (B)		費用 (C)			B / C
総便益費 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
3,199	下記と同規模の洪水に対する軽減効果 (事業区間内) ・平成2年台風第19号 床上浸水が解消 (床上浸水戸数 96戸 0戸) (床下浸水戸数 156戸 27戸) (浸水面積 21.5ha 3.2ha) ・平成16年台風第23号 浸水被害が解消 (床下浸水戸数 26戸 0戸) (浸水面積 5.6ha 0ha)	1,838	1,687	151	1.7

(2) 費用対効果に含まれない効果

道路の交通途絶による波及被害の軽減 医療・社会福祉施設、防災拠点施設、文化施設等の被害の軽減 多様な生物の生活環境の保全・再生・創出 親水空間の整備

河川事業の効果

対象事業：総合流域防災事業（二）香住谷川

（１）費用対効果

評価の視点	効果項目（費用対効果の便益内容）
治水安全度の向上	浸水被害の軽減 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・一般資産被害 (家屋、家庭用品、事業所償却資産、 農業家償却資産等) ・農産物被害、公共土木施設等被害、 営業停止被害、応急対策費用 </div>

（２）費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等
社会経済活動等の安定	道路、鉄道等の交通途絶による波及被害の軽減	県道香住港線等の交通途絶による波及被害の軽減
	医療・社会福祉施設、防災拠点施設、文化施設等の被害の軽減	香住病院、香住幼稚園、避難所（商工会議所、職業訓練センター、中央公民館）香住文化会館の浸水被害軽減
	津波による浸水被害の軽減	×
魅力ある河川空間の創造	多様な生物の生活環境の保全・再生・創出	河川及び沿川における生物の生活環境に配慮した整備（魚巣ブロック等の設置）により、環境の保全
	親水空間の整備・景観への配慮	水面に近づくための階段および小段を利用した歩道の整備による親水性の向上

印は当該事業効果の主な項目